



平成 20 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社エー・アンド・デイ
 代表者名 代表取締役執行役員社長 古川 陽
 (コード番号 7745 東証第一部)
 問合せ先 執行役員管理本部長 伊藤 貞雄
 (TEL. 048-593-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 8 月 1 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成 21 年 3 月期 第 2 四半期連結累計業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	17,650	518	600	634	28 41
今 回 修 正 予 想 (B)	16,292	△402	△720	△595	△26 84
増 減 額 (B-A)	△1,358	△920	△1,320	△1,229	—
増 減 率 (%)	△7.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	17,369	1,445	1,336	865	38 78

2. 平成 21 年 3 月期 通期連結業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	39,000	3,250	3,030	2,104	94 30
今 回 修 正 予 想 (B)	34,380	1,100	440	200	9 46
増 減 額 (B-A)	△4,620	△2,150	△2,590	△1,904	—
増 減 率 (%)	△11.8	△66.2	△85.5	△90.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	34,541	3,272	2,265	1,015	45 54

3. 平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計個別業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	13,140	370	620	320	14 34
今 回 修 正 予 想 (B)	12,265	△585	△378	△235	△10 60
増 減 額 (B-A)	△875	△955	△998	△555	—
増 減 率 (%)	△6.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	13,662	956	744	469	21 06

4. 平成 21 年 3 月期 通期個別業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	28,300	1,910	1,980	1,120	50 20
今 回 修 正 予 想 (B)	25,530	110	130	100	4 73
増 減 額 (B-A)	△2,770	△1,800	△1,850	△1,020	—
増 減 率 (%)	△9.8	△94.2	△93.4	△91.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	26,626	1,431	386	210	9 44

5. 修正の理由

- (1) 当第2四半期累計期間における業績につきましては、前回業績予想発表時に電子ビーム関連ユニットにおいて、半導体メーカーの半導体製造装置への設備投資抑制の影響から減額修正を行いました。当第2四半期累計期間でも回復は見られず更なる業績修正が必要となりました。また、産業界における設備投資は底堅く推移しているものの、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や原油・原材料価格の高騰、更には円高の影響などにより、一部で新規設備投資の先送りが見られたことから、計量機器及び計測機器についても前回予想を下回る見込みとなりました。また、ロシア現地法人 A&D RUS CO., LTD. では、事業拡大に向けた積極的な人材増強を行っていましたが、人員増による諸経費の増加に対し売上高の増加が伴わず、健康機器においても前回予想を下回る見込みとなりました。更にグルジア侵攻に端を発した露ルーブルの下落の影響から、多額な為替差損の計上を余儀なくされました。
- (2) 通期の業績につきましては、金融市場の混乱により世界経済は混迷が予想され、更に円高の影響を受け景気低迷が懸念されることから、計測・計量機器全般については、下期業績についても前回発表の業績予想に減額を加えることといたしました。また、医療・健康機器についてもロシア経済の不透明感から業績予想の下方修正が必要と判断いたしました。更に、当社が販売子会社を有するイギリス、ロシア、韓国及びオーストラリアに在っては、それぞれの自国通貨に対する急激な円高が進んでいることを受け為替レートの見直しを行ったことから、通期の業績予想につきましても前回公表した予想を下回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上